

(別紙)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2090300043		
法人名	社会福祉法人ジェイエー長野会		
事業所名	ローマンうえだグループホーム豊里		
所在地	386-0151 上田市芳田1871番地 (電話) 0268-34-6005		
評価機関名	有限会社 エフワイエル		
所在地	390-0811 松本市中央二丁目7-21川上ビル2F		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成21年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	8,47人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 ~ 58,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円) 退所時の居室修繕費	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,333 円	

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護 1	1名	要介護 2	2名			
要介護 3	6名	要介護 4	0名			
要介護 5	0名	要支援 2	0名			
年齢	平均	85 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿教湯付属豊殿診療所、葦沢内科医院、い内科クリニック、ア歯科診療所
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地でありながら、居室からはブドウ畑や田畑が広がり、居心地の良い光景にホームは存在する。「利用される皆様の安心と寛ぎのある自立生活を支援します。」の理念の基、母体施設で長年認知症ケアに携わった職員を中心に共に暮らし、入居者の思いを大切にしながら、自主的で主体的な暮らしの支援に努めている。事業計画書・運営会議議事録・公開可能な意見苦情等の対応記録・お便りが公開されており、「入居者の立場に立つには何をなすべきか?」という職員・関係者の意識が明確で、入居者・家族・地域と共に、職員が真摯に取り組む姿勢が確認できた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めてであり非該当とした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員への聞き取りや各種記録の確認において、「向上の一路に終点なし。」という、グループホーム豊里の全関係者の意気込みが感じられ、アンケートの意見・集計内容も納得がいくものである。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) メンバーは地域の関係者・関係機関・全家族・全入居者で構成され、ホームの状況報告だけでなく活発な意見が出され、具体的にサービスの向上に生かされている。議事録は入口玄関の棚に常時置かれており、何時でも・誰でも閲覧でき透明性の確保が図られている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 2ヶ月に1回の家族会・運営推進会議・面会時では、何でも言える環境が整備されており、出された意見・苦情等については速やかに対応を行ない、質の確保に結び付けている。同時に公開できるものは公開するなど、常に透明性の確保を意識した真摯な対応がなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域活動や行事に入居者と積極的に参加すると共に、地域に開かれたホームとして近隣の方がお茶を飲みに来れるよう開放し、繋がりを深めている。地域の福祉ニーズに応え、健康教室や介護予防教室に講師を派遣し、地域に溶け込み資源として還元している。地域の方との交流を更に深め、認知症ケアの拠点を目指すことが期待されるホームである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の尊厳と自立支援、地域との連携で安心して暮らし続けられる支援を理念とし、事業所独自の基本方針が、職員参画の下に分かりやすく作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各種の会議等で共有化を図っている。		定期的な周知度の確認も期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に積極的に参加する機会を作るなど、職員の支援努力が確認できた。これにより家族から高い評価を得ると共に、安心を与えている。		継続を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的な学習会で、評価の理解が各職員に浸透している。		入居者の支援に、成果として現れることを今後も期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に1回の定期的な開催が確認でき、その内容も充実しており、サービスの向上に直結していることが確認できる。		継続を期待したい。
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議には、地域の方の参加が毎回確認できるが、市担当者の確認はできなかった。視察の受け入れ等で市の担当者とは必要に応じて連携している。		市や包括支援センターの担当者との定期的な交流の機会を設け、保険者と地域の課題について、将来的な協働へとつながる取り組みの必要を感じる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	入居者の生活の様子・金銭管理等について、家族会・面会時に子細に報告し、広報誌にてホームでの暮らしぶりを紹介するなど、家族からの信頼を得ている。		継続を期待したい。
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	2ヶ月に1回開催の家族会・運営推進会議・面会時において何でも言える関係ができていく。出された意見・苦情等については速やかに対応がなされ、その内容が閲覧できる状況が確保されている。		継続を期待したい。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動は極力避ける方針であるが、やむを得ない場合は、着任した職員にもグループホーム独自の研修プログラムを用意し、新任職員と異動職員が1ヶ月一緒に業務を行い、入居者の不安をやわらげる工夫をしている。		継続を期待したい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人材育成の重要性を認識し、職員一人ひとりの中・長期的な段階に応じた計画で、内外の研修を実施している。資格取得の積極的な支援は職員の活力となっている。</p>		<p>入居者への支援の質に現れており、今後も継続を期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流は確認できる。</p>		<p>交流～連携～ネットワーク化へと進化させ、他のグループホームとの利用者同士の繋がりも期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族にホームの見学や家族会への見学・参加で思いや考えを受けとめ、その人に合った受け入れ態勢を整えている。</p>		<p>体験通所・入所ができる仕組みを作っていくことを期待したい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共に過ごす思いや気持ちを共有する職員の姿勢が入居者の安定・安心となり、ホームでの明るい表情に表れている。</p>		<p>入居者から享受された経験・知識を日々の記録に残し、家族の訪問時等に閲覧や話題として上げるなど、家族の絆の補強に役立てる工夫も期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報だけでなく、日々の生活の中で本人からきめ細かな希望・意向の把握に努め、その人らしく暮らし続けられる支援をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・各職種が協働で話し合い、入居者本位の介護計画が作成されている。</p>		<p>継続を期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個々の入居者について月1回のカンファレンスやモニタリングで、きめ細かな情報収集を行い、必要に応じて見直しを行っている。職員の周知度を上げるため、一人について3日かけることや、本人の参加を促すこともある。</p>		<p>継続を期待したい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションと連携して24時間の医療支援体制を整えており、家族の希望があれば受診時の送迎・付き添いにも応じている。</p>		<p>今後も柔軟な支援体制の継続を期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	本人・家族の希望に沿った医療機関での受診が可能であり、家族の要請があれば職員が受診の支援に応じている。		継続を期待したい。
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化した場合について家族の意向は確認しているが、対応方針やターミナルケアのあり方・支援については現在他職種協働で準備中である。		看取りの希望を主介護者に聞くだけでなく、他の家族の聞き取りも大切です。看取りにいたる過程も多様であり、様々なシュミレーションを経て、現在の看取り同意書の再検討の必要があると考える。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	尊厳とプライバシーの確保は、全職員で日常的に確認が行われている。		継続を期待したい。
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	入居者個々のペースに合わせ、その日の過ごし方を把握・支援し、本人主体の生活リズム（スタイル）が保障されている。		常に「その人らしい生活への支援は何か？」という意識を持続していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでは、その人の得意な力が発揮できる場面を作り、調理・片付け、一緒に食する楽しみな時間を共有している。		自主的かつ主体的な参加を、今後もさらに期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望の日・時間に何時でも対応できる支援をしている。		自主的かつ主体的な参加を、今後もさらに期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事・掃除・洗濯等の役割や、散歩・習字・手芸等の生き甲斐の場の提供で、入居者の活力を生んでいる。		自主的かつ主体的な参加を、今後もさらに期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や体調に合わせ、日常的に買い物・散歩・ドライブ等、気分転換の支援と共に、地域との交流の場面ともなっている。		自主的かつ主体的な参加を、今後もさらに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない方針であるが、入居者の状況に応じ、安全性を考慮して玄関を施錠するときもあるが、家族会で何度も話し合い理解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署・地域消防団・自治会の協力を得て、マニュアルに沿って入居者と共に避難訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日チェックし、状態の把握を行うと共に、定期的に管理栄養士によるアドバイスを得ている。		継続を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計から職員が希望を出せた施設で、施設という雰囲気のない、居心地の良い家庭的な雰囲気を感ずる。1日5回の室温・外気温・湿度のチェックを行い、快適な生活の保障と生活感・季節感も感ずる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や飾り付けで、その人らしい居室となっている。		持ち込みの私物は最大の福祉用具であるという認識を、職員だけでなく更に入居者・家族へ周知する必要がある。

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。